

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492700030		
法人名	医療法人 桜木記念病院		
事業所名	グループホーム桜木さん・明和		
所在地	三重県多気郡明和町大字佐田字沼2055		
自己評価作成日	平成 27 年 6 月 15 日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2492700030-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 7 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に生活の中で、利用者様の笑顔と笑い声がたくさん見られ聞こえるような施設運営を目指しています。利用者様一人一人が生き生きと毎日をご過ごしていただけるように、小さなことでもそれぞれに役割を持っていただくことで、自分にまだ価値と役割があることを認識していただき、生活の糧となるように、利用者様とスタッフが一緒になり、共に参加しあう生活を目指し努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近郊に斎宮跡があり、隣地には日々、幼い子供の声が聞こえる保育所が建ち、敷地を散歩する姿を見ることができ、利用者の笑顔があふれ楽しんでいる。また、リビングの窓からは田園風景が広がり、田植えから始まり稲穂の実り・収穫、冬の雪景色と馴染みの風景を楽しみ、視覚・嗅覚で季節の移ろいを感じることができる。リビングからは個室が見渡せ利用者の動きが把握しやすく職員の対応がスムーズに行える。『尊び心から尽くし介護させていただく』の理念の下、管理者との信頼関係が深く、現場経験豊かなケアマネジャーのもと若いスタッフとともに笑顔を決やせずに、また利用者が笑顔になるように支援を行っている。アイデアが豊富で利用者本位の支援を常に考え、廊下突き当りには、手製の【足神様】をお祀りし、歩行訓練、体力作り、入浴誘導等に役立てながらも利用者の励み・楽しみにつながっている。終末期への取り組みも日々できることを考え職員間での共有をはかり、利用者・家族本位になるよう支援を行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義を職員全体で理解に努め「尊び心から尽くし介護させていただく」を理念とし、申し送り、全体会議などの時に唱和し、行動理念の構築と定着に努めている。	若い職員のエネルギーを日々のケアに取りこみつつ、毎日の振り返りを大切にしている。 【笑顔】が理念実践の基であると考え具体的に笑顔で挨拶ができているかを検討し、理念の共有・実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事への参加、施設行事への招待などは行っている。隣接する保育所との交流や、ボランティア様の受け入れも行っているが、まだまだ十分だとは考えていない。	自治会活動に積極的に参加し、隣接の保育所との交流や自治会活動にも積極的に参加し、ボランティアグループの受け入れも行っている。車いすダンスメンバーが訪問したときは一緒に踊ることができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、地域連携推進会議、研修会などには積極的に参加をしている。また、地域施設の実習生の受け入れや学校の施設体験などにも積極的に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議において、施設行事への参加、取り組み事項などを実際に見て体験いただくなどして利用者様家族、自治会、民生委員、地域包括支援センター、町担当者との話し合いや意見交換を行っている。固定メンバー以外にも必要に応じて参加していただいている。	家族・自治会・行政等が参加し定期的開催しており、事業所の取り組みを紹介したり情報交換を話し合っており、信頼関係を築く場になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 平成 27 年 7 月 8 日	町担当者が主催する地域連携推進会議があり、他事業所、町、地域包括支援センターなどの情報交換やコミュニケーションをとっている、	月1回明和町地域連携推進会議に参加し、行政・他事業所・地域包括支援センター等と情報交換を行っている。公文式を取り入れた取り組みでは町への情報提供を行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護指定基準などにおける禁止の対象となる具体的な行為を理解し、生命の危険が伴う場合には市町村に連絡し、家族に対しては十分な状況説明の上文書にて同意をいただいている。また、拘束に関する勉強会を病院の協力を頂き開催、参加して、職員の意識を高めている。	若い職員が多いため母体の病院の協力の下、拘束の勉強会に参加し、日々は現場で気づいた点を細かく指導している等、熱心に拘束の問題に向き合いケアに臨んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内の虐待は一切ない。更に今後も虐待防止の為に母体の法人より講師を招き、勉強会を実施し、職員の虐待への意識向上を図りより一層の虐待防止に努めてゆく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている利用者様もおられ、社会福祉協議会と連携し必要な支援を現在も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には必ず管理者が契約についての重要事項の説明を行い、同意を得たうえでの契約締結としている。特に重度化した際の対応、急変時の対応、看取りに関しては重点的に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の様子や言動から心理的状況を察知するように努めている。またその内容については日誌やケース記録で情報の共有化を行っている。ご家族様の面会時などの会話の中にご意見、苦情がある場合には、運営者、管理者に報告し、問題解決や運営改善に役立てている	家族面会時には声かけを行い、意見・要望を聞き取るようにし、管理者・運営者へ伝え、改善につなげており、職員全員が共有する仕組みができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開催し、問題点の提起や改善、要望など自由に発言できる場となっている。リーダー会議を新たに行い、事前の話し合いや情報の共有に努め、また随時、職員間での話し合いを行い、結果を反映していただいている。	月1回の職員会議で問題点の洗い出し、新たな取り組み、イベント企画、職員の要望を話し合い、共有している。昨年は新たな企画の運動会が催され、利用者・職員に好評であり、地域の方々に興味をもってもらうことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやりがいを重視し、働きやすい職場にするべく努力し、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員よりの自主的な申出、施設に来る研修の案内等、受講の機会がある場合には研修を受けていただけるよう勤務編成を含めた環境作りに努力している。研修、勉強会を受講し、病院に申請するとポイントが付与され、評価の対象となる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連携推進会議、勉強会などに積極的に参加できるよう、勤務編成も含めた環境作りに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会に伺い本人様の御希望、要望などや不安に思われていることなどをお話してそれを受け止めるように努めている。また、入所初期にはこまめにコミュニケーションを図り気兼ねなく話し合える関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前に施設見学をしていただいたり、事前面接によりご家族様が困っている事や要望を伺うことで安心していただき、より良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に家族様の要望本人様の希望などより、まず必要となるサービスを見極め、必要とあれば前施設と連携し、他のサービスも含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活を、一方的に介護してもらう立場に利用者様を置かず、残存機能を活かしお互いが一緒に助け合って生活をしていくという意識で支援にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に利用者様の近況をお伝えしたり、また、日々のケアに当たるうえで必要な、在宅時の状況を教えていただいたり、家族様とのコミュニケーションを密にすることにより、家族様を巻き込んだチームケアに当たれるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の御意向を伺いながら、本人様の友人、知人、幼馴染等が訪問しやすいように支援を行っている。	利用者は近隣の方々が多く、馴染みの人が訪れており、利用者・家族の希望に沿った対応を進めている。お墓まいりや本の好きな方と図書館へ出向くなど個別の支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状況や、利用者様同士の関係を注意深く見守り、孤立しないようにかかわっていくように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば随時対応をできるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望や意向を入所時や面会時に聞き取り、できる限りご期待に沿えるように支援を実施する。意思疎通困難な方に対しては、その利用者様の行動や生活の中から出るニーズを把握し、カンファレンスの中で検討を実施している。過去歴より情報を収集し、気付きを日報に記すことで共通認識としている	利用者の生活歴・発する言葉・しぐさ等から情報収集に努め、日々コミュニケーションをとる方法を心がけてケアに取り組んでいる。細やかな気付きをも職員の共有を図る仕組みづくりを行って、思い・意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活状態、日常の会話や趣味等思い出をご本人様、家族様から伺いサービス利用までの経過や今後の施設での生活につなげてゆけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活状態の観察を行い、その行動に起因する精神状態等をきめ細かく観察し、利用者様の現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで利用者様の希望、要望、現状を話し合い、その情報を職員が共有できるようにしている。また、家族様が来られた際に日々の様子をお伝えし、ご家族様よりの意見、要望を伺い介護計画に取り入れている。	カンファレンス記録・介護日誌・申し送りノート等で利用者の希望・変化、家族の要望等の情報収集と共有を図り、3か月ごとのモニタリングに反映し介護計画の見直しを行っている。	職員からの情報収集をこまめに行っているが情報の見える化を進め、さらなる共有化に役立てることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果等は介護経過に個別の記録を行っている。また、新たな気づき、工夫があった場合など、ミーティングを実施し、情報を職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活支援、健康管理、機能訓練、病院受診、訪問診療、訪問看護等、時々生まれるニーズを把握し迅速に対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族様や自治会、社会福祉協議会などからのボランティアの紹介や、隣接する笹笹保育所の園児の訪問、小学生の慰問など情緒を豊かにし、精神的な満足感を味わっていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に、入所後も継続して診ていただけるよう施設への往診を含め、主治医及び家族様と相談調整している。	かかりつけ医の受診・往診を支援し、歯科は往診を依頼している。母体の桜木病院との協力体制があり、家族・利用者の意向を反映した適切な支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理についていつでも相談ができる、また異状発生時においても迅速に対応できる体制が整っており適切な支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーを提供し、日常生活の情報を伝える。入院中には定期的に病室担当ナースに病状伺いを行い、退院時には施設での生活がスムーズに行えるように病院より情報をいただき対応するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や、重度化が予想される場合には、本人・家族の意向を確認記録し、主治医や職員間での情報の共有化を図り、緊急時の対応のみならず通常時の対応に関しても最良の介護が提供できるようにしている。また、看取りも行っており、病院と一緒に作成した指針を設け、支援体制を作っている	重度化した場合や終末期のあり方は、本人・家族との話し合いをもち方向性を確認し、事業所全体での共有を図っている。5～6名の看取りの実績はあるが、未経験職員も増え職員の乗り越える力もつけていくようシフト変更に対応しながら事業所全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導による急変時の応急手当や対応訓練を実施し、定期的に繰り返し行うことによりスムーズな対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な火災・防災訓練を実施し、問題点の抽出や見落とし事項の洗い出し等を実施している。また、地域連携会議等で、町や他施設の防災対策を情報交換し、自施設に役立てている。今年度は自治会の防災訓練にも参加させていただき、連携を強化してゆく。	事業所独自で水・食糧の備蓄、火災・防災訓練を年2回行い、利用者の安全確保に向け、災害対策意識を高めている。今年度から自治会の防災訓練に参加し、大規模地震に備えた地域連携を強化している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや気配りに配慮して、不適切な介護や対応に関しては職員同士で注意しあい、職員全体の問題として捉えている。特にプライバシーに関する事柄については、個人の特定がされないような配慮を行っている。	利用者への言葉かけ・態度・対応等、気配りを忘れぬよう職員間で注意を払っている。個人が特定させることのないよう会話にも気を配った対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での、表情や会話の中で自己決定やその人らしい希望を引き出すように努めている。意志疎通の困難な方も多いため、過去歴や家族様からの情報を参考にさせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、基本的には利用者様の希望やペースに目を配り、柔軟に対応できるようにしている。意志疎通の困難な方も多いため、職員の寄り添いを大切に、気付きを介護に活かせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感を第一に、その利用者様に会うと思われる季節に合わせた服装を選ばせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは決まっているが、利用者様一人一人の状況に合わせて食品の加工や形態を変えさせていただいている。また、普段の食事の様子から好みのものを推測し、食事を楽しんでいただけるように配慮している。	食事作りや片付け等、できることを利用者とともにやっている。好みや菜園での収穫・差し入れで自由にメニュー変更も行っている。おやつリクエストもあり、話題あふれる食事で楽しみなものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量、水分量のチェックを行っている。また、利用者様の体調、習慣によっても調理方法、食事形態を一人一人の状態に合わせて支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、困難な場合には利用者様の状況に合わせて支援を行っている。また、家族様の要望を聞き、歯科医師による口腔ケア往診を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートなどを活用し、排泄のリズムやパターンを観察して記録し、職員が共通認識できるようにして、利用者様一人一人の身体状況に合わせ、残存機能の保持、向上を目的に介助を行い、トイレでの排泄や排泄の自立を目指した支援を心掛けている。	排泄パターンを観察・記録し、声かけ・見守りを実施している。また、夜間の対応も含め個々の利用者の負担にならないよう排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	車イスの利用者が多く、どうしても運動量の減少がある為、腹部マッサージも取り入れて町の動きがよくなるようにしている。また、水分補給にも留意し、身体環境を整えるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望、体調、気分によって一人一人に合った入浴支援をしている。無理強いせず、音楽を流したり、入浴剤を使用したりして、入浴が楽しめるように支援をしている。	本人の希望に沿い、週2・3回の入浴支援を行っている。リゾート気分が味わえるような工夫を凝らし、入浴で気分転換を図る支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて、畳やベッド、フロアのソファで休めるように一人一人に対しての支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が常に確認できるように薬剤情報を作成し、ファイルしてある。また医師の指示により薬剤が変更された場合には、日誌、連絡ノートにて職員全員が周知できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き等軽微な作業をしていただいたり、職員と共に掃除をしていただいたりしている。利用者様の生活歴より趣味や嗜好を考え、興味を持つことに対して情報や行動の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、近場での花見、足湯など外出を行っている。また、外食、ドライブ等家族様の協力も得ながら出かけられるように支援を実施している。施設内にある菜園での作物のお世話や収穫なども楽しんでいただいている。	買い物・外気浴・散歩は日常的に行い、菜園の収穫は楽しみになっている。花見・斎王祭の見物等季節の外出、喫茶店への外食等利用者の希望に沿った支援を行っている。今後は家族地域支援で遠方への外出も検討していく意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者様には個人で財布を所有していただいている場合もある。買い物同行時には希望のものを購入いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかける(受ける)支援、手紙の投函等を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共用空間の中、ゆったりとした気分で生活感が目で感じられるように生活環境に配慮している。利用者一人一人が自由に過ごす事が出来る環境づくりを意識している。	清潔に保たれ、広々としたリビングからは、明るく光が差し込み、馴染みの田園風景が見渡せ季節のうつろいが感じられる。廊下突き当りには足神様が祀られ利用者の楽しみになっている。遠方への外出の代わりに楽しく、居心地よく過ごすことができるよう工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で入居者同士自由にゆっくりと過ごすことができ、一人になりたい時には各居室で過ごすことができるようにそれぞれ配慮をしている、		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、自宅同様安心して過ごせるように対応しているが、危険と思われる場合には家族様と相談しながら安全面にも配慮をしている。	使い慣れた椅子、テレビ、馴染みの仏壇を持ち込んでいる。仏壇にはごはんをお供えしており、利用者が居心地よく過ごせるよう安全に配慮しながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでフロア全体、浴室、トイレ廊下には手すりを設置し、安全に生活できるようにしている。又、個人の残存機能を生かし、可能な範囲でできることをしていただくように努めている。		